2021年度神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会と神奈川県看護師等養成機関連絡協議会との連絡会議

第3部
「地域看護師養成事業検討会」における議論について

神奈川県健康医療局保健医療部医療課　課長代理　中村佐知子

2022年3月28日

【神奈川県地域看護師養成事業検討会 発足の背景】

○県は、神奈川県看護師等実習病院連絡協議会及び神奈川県看護師等養成機関連絡協議会より、「地域看護師（仮称）」養成に関する看護職員連携キャリア支援事業について、提案・要望をいただいてきた。

（要望内容概要）：看護師が集中する中核病院と、なお看護師が不足する地域の病院とが連携し、地域包括ケア時代に求められる看護職のキャリア形成を支援しつつ、「地域看護師（仮称）」を養成する。県には事業の周知徹底を要望するとともに、事業の整備化への支援求める。

↓

○県は、2021年度に、地域看護師の養成等を検討するための会議体の開催費用を予算化し、神奈川県看護師等実習病院連絡協議会との共催により「地域看護師養成事業検討会」を設置。構成員を協議会の適正化部会員等及び県医療課職員とし、事務局を協議会及び県医療課に置くこととした。

【令和3年度　検討会実施状況】

○第1回　令和３年８月31日（火）17：30～18：30

○第2回　令和３年12月２日（木）16：00～17：30

○第3回　令和４年２月７日　（月）15：00～16：30

＜主な議題＞

・本県における地域看護師養成事業案について

・地域看護師の定義と養成普及事業について

・事業の実施スケジュールについて

・周知のためのリーフレットについて　　等

１ 【かながわ地域看護師養成普及事業検討の背景及び目的】

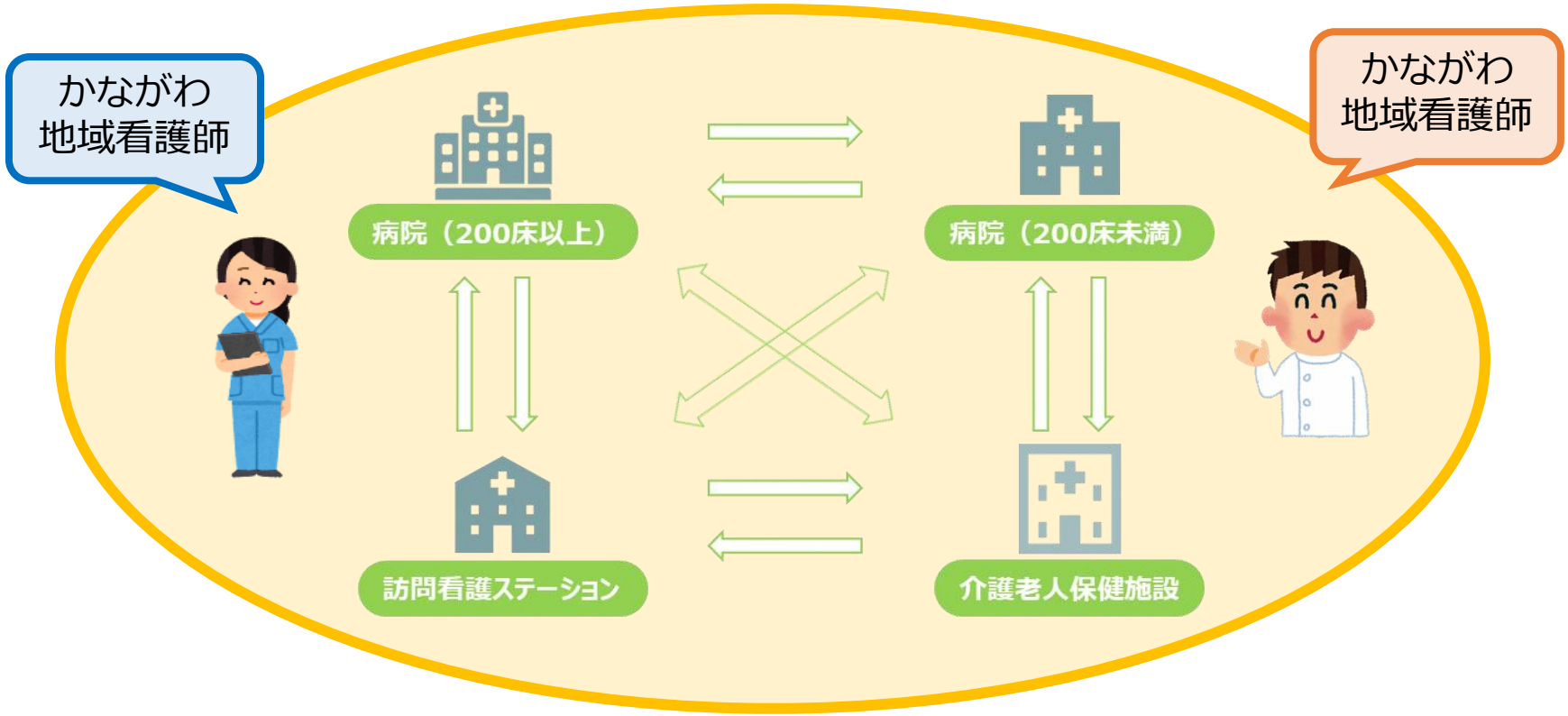
今後、少子化の一層の進行による18歳人口の減少や看護人材の不足が見込まれる中で、超高齢社会で必要となる医療・福祉の提供のためには、看護師が継続して地域で長期にわたり活躍できることが重要である。

そのため、かながわ地域看護師養成普及事業（以下、「事業」とする。）は、「かながわ地域看護師」の概念と必要性を関係者が認識し、地域の中で、養成機関や医療機関等が連携してその育成と普及に取り組むことにより、地域包括ケアシステムの推進に貢献し、併せて地域における看護の質の向上をはかることを目的として実施を検討した。

○以降、検討の内容について、報告する。

【本事業のイメージ（人材交流プログラム）】

○地域における異なる施設間での人材交流（一定期間の在籍型出向等）



地域⇒原則二次保健医療圏（実情に応じその一部や他の医療圏との部分的合体による設定も可）

2 【かながわ地域看護師の定義】

「かながわ地域看護師」とは、神奈川県内において、次の要件を満たし地域でジェネラリストとして活躍する看護師をいう。

○地域の人口構造などの特性と、医療・福祉関係の資源や課題を理解している。

○病院や介護老人保健施設等、地域の施設等で様々な健康レベルにある対象を全人的に捉え、生活機能の回復・維持を支援している。

○看護実践能力及び調整能力を活かし、自施設以外の多職種とも連携を図っている。

３ 【かながわ地域看護師に求められる資質】

かながわ地域看護師は、看護師個人のライフサイクルやニーズと調和する形で、同一ないし異なる施設間での異動・入退職（転職）やキャリア形成を一定の地域の中で継続し、地域包括ケアを推進できる看護師として、上記定義の３要件を満たしていること。

４ 【 事業の推進体制 】

事業の推進にあたり 、 神奈川県と神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会との共催により検討会を設置し、かながわ地域看護師の確保・養成 について、医療機関や養成機関への情報提供 や県民及び医療従事者に対する普及啓発等を行っていく。

5 【事業における地域の設定】

原則二次保健医療圏とするが、実情に応じ、その一部や他の医療圏との部分的合体による設定も可とする。

6 【事業の将来ビジョン】

第８次神奈川県保健医療計画に施策として位置付けること等について、「神奈川県看護職員の確保及び資質向上推進委員会」にて検討。

【令和4年度のスケジュール】

	2022年4～6月	7～10月	11～2月	3月
神奈川県	○施策への位置付けを検討（神奈川県看護職員の確保及び資質向上推進委員会） ○関係団体へ説明・周知及び協力依頼	○関係会議等での周知	○各地域において説明・周知	かながわ地域看護師養成普及事業報告会
地域看護師養成事業検討会	開催 ガイドライン検討	開催 ガイドライン作成	開催 ガイドライン周知	
各地域	交流会開催準備	交流会開催	研修会開催 ⇒令和５年度事業（人材交流）準備	

７ 【今後の取組】

（１）ガイドライン作成（令和4年度）

・実施する病院等に対して、効果的かつ円滑に実施するためのガイドラインを作成する。（協定書のひな型を含む）

（２）事業の周知等

①リーフレットによる周知（県内病院、看護師等学校養成所等）及び県ホームページ等への掲載

②関係会議等での周知（各地域での医療関係者会議を含む）

７ 【今後の取組】

（３）交流会・研修会の開催

・各地域において、事業の説明・周知を実施した上で、各地域で交流会を開催し、情報共有や課題共有を行う。

・地域の医療資源を知り、活用するための研修会等を開催する。

（４）異なる施設間における人材交流の実施（令和５年度以降）

（一定期間の在籍型出向等）

具体例①～③について、スライド11頁～13頁

7 【今後の取組】

（４）異なる施設間における人材交流の実施（令和５年度以降）

＜具体例①＞

実施施設	Ａ病院（中小規模の病院）とＢ病院（中核病院）
実施期間	６か月間
対象者	主任クラスの看護職員
実施方法	Ａ病院とＢ病院で、双方向での人材交流を実施。 在籍型出向となるため、対象者は自病院に在籍。 ・病院間で協定書を締結。人員配置加算について、協定書にて取り決める。
効果	○地域連携に関わる部署や地域包括ケア病棟等で働く看護職員が、地域の別の機能を有する病院で働くことにより、高度急性期から、急性期、在宅までの状況等を知り、継続看護の視点を拡げることができる。 ○自病院等で培った知識や技術を提供し、相互理解を深め、自病院での看護実践に活かすことができる。

7 【今後の取組】

（４）異なる施設間における人材交流の実施（令和５年度以降）

＜具体例②＞

実施施設	Ａ病院（中小規模の病院）とＢ施設（介護老人保健施設等）
実施期間	３か月間
対象者	主任クラスの看護職員
実施方法	Ａ病院とＢ施設で、人材交流を実施。 在籍型出向となるため、対象者は自施設に在籍。 ・施設間で協定書を締結。人員配置加算について、協定書にて取り決める。
効果	○地域包括ケア病棟等や介護老人保健施設等で働く職員が、設置目的が異なる施設で働くことにより、急性期から介護施設、在宅までの状況等を知り、継続看護の視点を拡げることができる。 ○自病院等で培った知識や技術を提供し、相互理解を深め、自施設での看護実践に活かすことができる。

7　【今後の取組】

（４）異なる施設間における人材交流の実施（令和５年度以降）

＜具体例③＞

実施施設	Ａ病院（中小規模の病院）とＢ病院（中核病院）
実施期間	１年間
対象者	入職後３年目程度の看護職員（入職時から対象者決定）
実施方法	Ａ病院とＢ病院で、人材交流を実施。 入職１～２年目は自施設において看護実践や所定の研修等を受講し、３年目に他施設に出向する。 在籍型出向となるため、対象者は自病院に在籍。 ・病院間で協定書を締結。人員配置加算について、協定書にて取り決める。
効果	○自病院の看護の役割や機能、特徴を理解した上で、地域の別の機能を有する病院で働くことにより、高度急性期から、急性期、在宅までの状況等を知り、継続看護の視点を拡げることができる。 ○地域の中で、将来どのような分野で働き続けるか等について考える機会になり、キャリア支援や離職防止につながる。

（参考）リーフレット（病院等施設管理者向け：全４頁）

神奈川県

～病院等施設管理者・看護管理者の皆さまへ～

かながわ地域看護師養成普及事業のご案内

【問合せ先：神奈川県地域看護師養成事業検討会事務局】

◆神奈川県健康医療局保健医療部医療課人材確保グループ
電　話：045-210-4759
メール：chiho-kanjin@pref.kanagawa.lg.jp

◆神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会
電　話：045-242-7221
メール：toiawase@k-ha.or.jp

かながわ地域看護師とは？

地域でジェネラリストとして活躍する看護師です

○ 地域の人口構造などの特性と、医療・福祉関係の資源や課題を理解している
○ 病院や介護老人保健施設等、地域の施設等で様々な健康レベルにある対象を全人的に捉え、生活機能の回復・維持を支援している
○ 看護実践能力及び調整能力を活かし、自施設以外の多職種とも連携を図っている

求められる資質は？

○ 看護師個人のライフサイクルやニーズと調和する形で、同一ないし異なる施設間での異動・入退職（転職）やキャリア形成を一定の地域の中で継続し、地域包括ケアを推進できる資質として、上記定義の３要件を満たしていることです。

★本事業の特徴★

- 地域包括ケアシステムの中で活躍できる看護師を養成します！
- 単施設のみではなく、複数施設でキャリアを支援します！
- 継続看護の視点が拡がり、自施設及び地域で更に活躍できる看護師の養成につながります！
- 魅力あるプログラムにより、潜在看護師の復職支援の一つになります！

（参考）リーフレット（病院等施設管理者向け：全４頁）

神奈川県地域看護師養成普及事業とは？

事業実施の背景と目的

○ 今後、少子高齢化の進行による18歳人口の減少や看護人材の不足が見込まれる中で、超高齢社会で必要となる医療・福祉の提供のためには、看護師が地域で長期にわたり活躍できることが重要です。

○ そのため、「かながわ地域看護師」の概念と必要性を関係者が認識し、地域の中で、養成機関や医療機関等が連携してその育成と普及に取り組むことにより、地域包括ケアシステムの推進に貢献し併せて地域における看護の質の向上をはかることを目的として実施します。

事業実施における推進体制

○ 神奈川県と神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会が協同で検討会を設置し、かながわ地域看護師の確保・養成について、医療機関や養成機関への情報提供や県民及び医療従事者に対する普及啓発等を行います。

事業実施のスケジュール及び取組（計画）

地域の医療資源を知り、活用するための研修の実施等

養成普及事業実施のためのガイドライン作成

かながわ地域看護師養成普及事業交流会開催

異なる施設間での人材交流

令和5年度モデル事業実施予定！

	2022年4~6月	7~10月	11~2月	3月
神奈川県 地域看護師養成事業検討会	○関係団体へ説明・周知及び協力依頼 ○施設への位置付けを検討 開催 ガイドライン案の検討	○県主催の関係会議等での周知 開催 ガイドラインの作成	○各地域において説明・周知 開催 ガイドラインの周知	かながわ地域看護師養成普及事業報告会
各地域	交流会開催事業	交流会開催	研修会開催 ⇒令和5年度モデル事業（人材交流）準備	

取組事例のご紹介

【事例①】 公益財団法人横浜勤労者福祉協会　汐田総合病院

＜理事長　陣内孝雄様＞

高齢化の進行で、病床の機能分化と連携を進める地域医療構想と患者・利用者を地域で支える地域包括ケアの仕組みつくりが本格化しています。「病院入院、地域在宅」を支えるには、急性期医療分野だけではなく、地域の回復期や慢性期の病棟、訪問看護や介護施設で活躍する「地域看護師」が不可欠です。私たちの育成プログラムが、これからの地域ニーズを担う「地域看護師」を育てるキャリア支援に役立てば幸いです。

＜看護部長　中山洋子様＞

「地域看護師」は、「循環型」と「養成型」での育成を開始し、「養成型」の当院での受け入れは2022年度が初年度となります。高齢者の生活そのものを支えたいという看護師達が、意欲的にとりくんでいます。地域包括ケア時代を支える看護師のキャリア形成を地域全体で担えれば幸いです。

【事例②】 社会福祉法人恩賜財団　済生会横浜市東部病院

＜看護部長　渡邊輝子様＞

どのような機能の場でも活躍でき、地域に貢献できるジェネラリストナースになってもらうことを期待しています。自分の所属する施設とは違う施設基準（一般病棟、回復期リハビリテーション、地域包括ケア）での看護を経験し、実践の振り返りを通して継続看護の学びを深めることができます。病院同士の看護の連携力を備えて、地域における看護サービスの質を向上していきたいと思います。

＜「循環型」出向者の方の感想＞

地域での病院同士の連携を知りたいと思い希望しました。汐田総合病院の一般病棟の看護師が積極的に退院支援にかかわっている姿勢をみて、入退院支援の重要さを知りました。また、患者さんの治療が困難かつ緊急性が高い状況の時には、高度急性期病院の済生会横浜市東部病院に転院調整されているのをみて、自分の所属する病院の役割を実感し、視野が広がりました。

皆様へのメッセージ

伊勢原協同病院
副院長兼看護部長
神保京美様

少子高齢化が進み、地域完結型医療にシフトしている環境下において、様々な疾患を持つ患者に対応できるジェネラリストの育成が急務となっています。本事業への参画が、様々な診療科の看護や多様な価値観を学ぶ機会となり、地域で活躍できる人材育成の一助となればと考えています。

三浦市立病院
総病院長
小澤幸弘様

地域において、中核病院は医療の最後の砦です。看護師にも病を治すための専門的な能力が求められます。それに対して、地域に密着した中小病院は地域包括ケアシステムの要です。看護師は病を抱え地域に戻り生活する人の最も身近な支援者であり、そこに地域看護師がいることが求められていると考えます。

座間総合病院
副院長・看護部長
竹村華織様

地域医療構想がより具体化する中で、地域の看護ニーズが変化しています。急性期看護の実践力に加え、地域との連携を見据えた看護を展開できるジェネラルカを備えた看護師が鍵を握ります。ひとつの病院で看護師を育成することから複数病院で育てるあらたな看護師のキャリア支援の在り方。看護管理者として患者と家族が暮らす地域の安心を守るために、この事業についてぜひ関心をお持ちいただき一緒に取り組みしませんか。

（参考）リーフレット（看護師等養成機関向け：全４頁）

神奈川県

～看護師等養成機関の皆さまへ～

かながわ地域看護師養成普及事業のご案内

【問合せ先：神奈川県地域看護師養成事業検討会事務局】

◆神奈川県健康医療局保健医療部医療課人材確保グループ
電　話：045-210-4759
メール：chiho-kanjin@pref.kanagawa.lg.jp

◆神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会
電　話：045-242-7221
メール：toiawase@k-ha.or.jp

かながわ地域看護師とは？

地域でジェネラリストとして活躍する看護師です

○ 地域の人口構造などの特性と、医療・福祉関係の資源や課題を理解している
○ 病院や介護老人保健施設等、地域の施設等で様々な健康レベルにある対象を全人的に捉え、生活機能の回復・維持を支援している
○ 看護実践能力及び調整能力を活かし、自施設以外の多職種とも連携を図っている

求められる資質は？

○ 看護師個人のライフサイクルやニーズと調和する形で、同一ないし異なる施設間での異動・入退職（転職）やキャリア形成を一定の地域の中で継続し、地域包括ケアを推進できる資質として、上記定義の３要件を満たしていることです。

★本事業の特徴★

- 地域包括ケアシステムの中で活躍できる看護師を養成します！
- 単施設のみではなく、複数施設でキャリアを支援します！
- 継続看護の視点が拡がり、多様な施設で更に活躍できる看護師の養成につながります！
- 卒業後、看護師としてのキャリアを支援し、住み慣れた地域で継続して働けます！

（参考）リーフレット（看護師等養成機関向け：全４頁）

神奈川県地域看護師養成普及事業とは？

事業実施の背景と目的

○ 今後、少子高齢化の進行による18歳人口の減少や看護人材の不足が見込まれる中で、超高齢社会で必要となる医療・福祉の提供のためには、看護師が地域で長期にわたり活躍できることが重要です。

○ そのため、「かながわ地域看護師」の概念と必要性を関係者が認識し、地域の中で、養成機関や医療機関等が連携してその育成と普及に取り組むことにより、地域包括ケアシステムの推進に貢献し併せて地域における看護の質の向上をはかることを目的として実施します。

事業実施における推進体制

○ 神奈川県と神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会が協同で検討会を設置し、かながわ地域看護師の確保・養成について、医療機関や養成機関への情報提供や県民及び医療従事者に対する普及啓発等を行います。

事業実施のスケジュール及び取組（計画）

地域の医療資源を知り、活用するための研修の実施等

養成普及事業実施のためのガイドライン作成

かながわ地域看護師養成普及事業交流会開催

異なる施設間での人材交流

令和5年度モデル事業実施予定！

	2022年4~6月	7~10月	11~2月	3月
神奈川県 地域看護師養成事業検討会	○関係団体へ説明・周知及び協力依頼 ○施策への位置付けを検討 開催 ガイドライン案の検討	○県主催の関係会議等での周知 開催 ガイドラインの作成	○各地域において説明・周知 開催 ガイドラインの周知	かながわ地域看護師養成普及事業報告会
各地域	交流会開催準備	交流会開催	研修会開催 ⇒令和5年度モデル事業（人材交流）準備	

取組事例のご紹介

【事例①】 公益財団法人横浜勤労者福祉協会　汐田総合病院

＜理事長　窪倉孝道様＞

高齢化の進行で、病床の機能分化と連携を進める地域医療構想と患者・利用者を地域で支える地域包括ケアの仕組みつくりが本格化しています。「時々入院、ほぼ在宅」を支えるには、急性期医療分野だけではなく、地域の回復期や慢性期の病棟、訪問看護や介護施設で活躍する「地域看護師」が不可欠です。私たちの育成プログラムが、これからの地域ニーズを担う「地域看護師」を育てるキャリア支援に役立てば幸いです。

＜看護部長　南山庄子様＞

「地域看護師」は、「離職型」と「養成型」での育成を開始し、「養成型」の当院での受け入れは2022年度が初年度となります。高齢者の生活そのものを支えたいという看護師達が、意欲的にとりくんでいます。地域包括ケア時代を支える看護師のキャリア形成を地域全体で担えれば幸いです。

【事例②】 社会福祉法人恩賜財団　済生会横浜市東部病院

＜看護部長　渡邊輝子様＞

どのような機能の場でも活躍でき、地域に貢献できるジェネラリストナースになってもらうことを期待しています。自分の所属する施設とは違う施設基準（一般病棟、回復期リハビリテーション、地域包括ケア）での看護を経験し、実践の振り返りを通して継続看護の学びを深めることができます。病院同士の看護の連携力を鍛えて、地域における看護サービスの質を向上していきたいと思います。

＜「離職型」出向者の方の感想＞

地域での病院同士の連携を知りたいと思い希望しました。汐田総合病院の一般病棟の看護師が積極的に退院支援にかかわっている姿勢をみて、入退院支援の重要さを知りました。また、患者さんの治療が困難かつ緊急性が高い状況の時には、高度急性期病院の済生会横浜市東部病院に転院調整されているのをみて、自分の所属する病院の役割を実感し、視野が広がりました。

皆様へのメッセージ

横須賀共済病院
副院長兼看護部長
小池美智子様

少子高齢化・生産年齢人口減少の中で、ジェネラリストとして、多様な場面で活躍できる看護師が求められています。看護師等養成機関の皆様に本事業をご理解いただき、看護学生が「かながわ地域看護師」に関心を持ち、未来に向けた看護を考えられるよう、協働できれば幸いです。

三浦市立病院
総病院長
小澤幸弘様

地域において、中核病院は医療の最後の砦です。看護師にも病を治すための専門的な能力が求められます。それに対して、地域に密着した中小病院は地域包括ケアシステムの要です。看護師は病を抱え地域に戻り生活する人の最も身近な支援者であり、そこに地域看護師がいることが求められていると考えます。

神奈川県看護師等養成機関連絡協議会
会長　榊恵子様

看護系学校で学ぶ皆様は、地域包括ケアの重要性について、ひしひしと感じておられることでしょう。今後、病院、地域の連携の中で将来の看護師像を作り上げていく必要があります。その先導を担っていく新人看護師を期待するところです。将来の看護を作るのは皆さん自身です。